

八郎太郎の伝説（一）

山本郡八竜町芦崎 岩谷トヨ（78才）

^{なんそほ}

八郎太郎が十和田にいで、南祖坊どけんかして、負けで、そして、あそごさ居られねエために、こっちへ来たところで、自分の住み家にするどころあるだろうと、七座の天神の深いどころ住み家にしたそだ。

とどろで、七座の天神はネズミたくさんあじべで、相談したとどろで、ここに、八郎太郎に住まればたいへんだがら、あそごら辺の神様皆あじめで、相談した結果、追うどしたそだ。

したら、あそごの^{おが}高丘山たがとどで、上って見だとどろで、こちらの方になんだが、こう潮らしものあるし、それで、こっちの方へ来よど思て来たとどろで、そごもまだ、あんまり大きぐねもんだために、もっと広げで、自分の住み家にしょうど思ったど。

そごで、こごのウバ御前で老夫婦が住んでいだど。んだどもしゃア、そごさ行て、「オレこご住

み家にするに、オメがだここに、おかれねんてがに逃げてけれ」そしてまた「一番ドリの鳴ぐ時分に大水増してくるがら、オメがだ逃げるように」と言ったど。

とどろで、本当のニワトリでねぐ、天のジャグが、聞だもんだやらどだもんだやら、一番ドリの真似して「コケッコー」ど鳴いだそりだ。

それで、老夫婦がハア、あわくってハア、逃げ仕度したそだが二人とも逃げるに、ババが藤の米ベッコ忘れで、とに来たとどろで、そのうち大水増してきてハア、ジジは、じっと行ってしまったし、ババはアブアブしてだどどろ人を殺してはへエ、神様になれねど思て八郎太郎がジジの逃げだ方の東さでなく、まだ、もどの芦崎の方、足でなげだがら足崎（芦崎）と言うそだ。

してなげられだどどろは、ウバ林って、芦崎と大谷地の間さ、小さい林コどして残っている。

そのためにしエ、にわどりの真似した、天のジャグだども、それから、にわどりに食べらえねえと
言う伝えだ。